

⑫【複数年度(2年目)】JR宮崎駅を拠点とした幹線道路等における多様な地域ニーズに対応した道路空間に関する社会実験(宮崎県、宮崎県宮崎市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- 駅周辺の幹線道路等における多様なニーズに対応するための道路空間の柔軟な使い方について検証を行う。

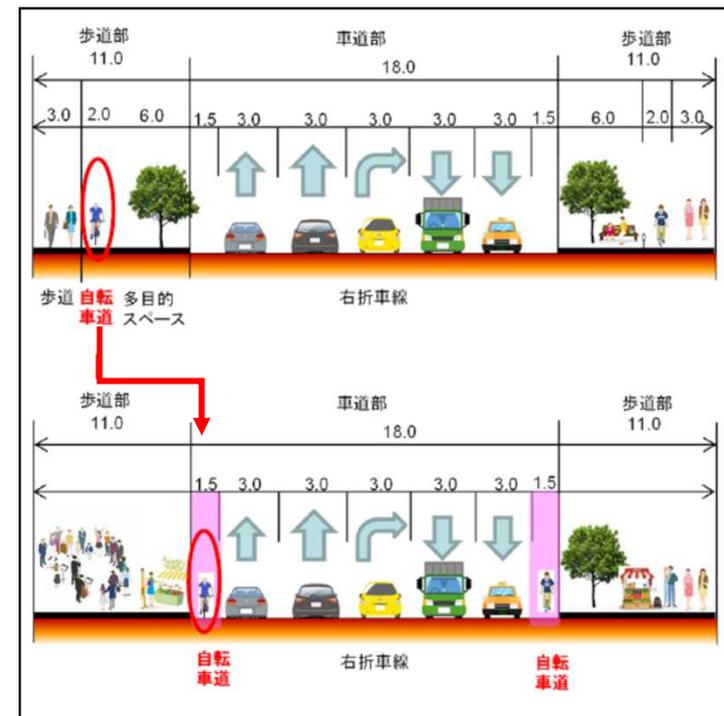
2. 実験内容、実験結果

① 日別時間帯別の道路占用管理

- ⇒オープンカフェやキッチンカーの利用など、歩道での楽しみや息抜きスペースを求める声があったことから、歩道空間での憩い空間の需要が高い
- ⇒自転車と歩行者の混在を危惧する声が多く、自転車の安全な配置が課題
- ⇒荷捌きについては、時間帯別の利用というのは難しいことが想定

② 道路空間の再配分・運用方法の見直し

- ⇒車道内の自転車通行空間については、安全性や走行性の面から効果的だったが、渋滞が発生したことから、現況の自動車交通量での実現は難しいことが確認
- ⇒車道側の歩道内通行によって、歩行者と自転車が分離できる可能性があることが確認



道路空間の再配分イメージ

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
矢羽根を設置するのならば、自転車の歩道通行を止めたらどうか。	停車帯の停車車両との接触回避のため、歩道を通行できるようにしている。
今後実験を取りまとめる際には、本格実施に向け、どういうグループで何からどのように手を付けていくのかを戦略的に議論してほしい。	令和5年2月に開催した協議会の中で、優先的に取り組む事項を決定したので、来年度以降は、その内容を中心に検討していく予定としている。
人が溢れた際に、他の道路に人を逃がす仕組みができるとよい。	今後の検討課題とする。

⑫【複数年度(2年目)】JR宮崎駅を拠点とした幹線道路等における多様な地域ニーズに対応した道路空間に関する社会実験(宮崎県、宮崎県宮崎市)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
民間開発と連携して道路空間利活用に取り組み、その成功事例を周辺に拡大していくことが必要である。	店舗前歩道空間の活用を含めた道路占用について、民間の意見を踏まえて進める。 ウォークアブル関連制度やほこみち制度等の活用を検討する。 合意形成や運勢体制については、宮崎市が高千穂通りの関係事業者との意見交換を行う検討会を設置して進める。
人と、自転車・自動車を含む多様なモビリティが共存できる安全な空間づくりが必要である。	まずは、自転車の通行空間から重点的に検討を進める。 高千穂通りにおける取組については、民間空間を含めた取組と連携して行うこととする。

5. 今後のスケジュール

- R5～R6年度 ウォークアブルな道路空間に向けた公民連携の試行
歩道内(車道側)の自転車通行の試行
- R7～R8年度 矢羽根、自転車通行帯の設置
賑わいと荷捌き及び自転車・自動車を含むモビリティとの共存
エリア内での駐輪対策
- R9年度以降 面的な展開に向けた民間主導のウォークアブルな道路空間への行政支援

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ キッチンカーを設置した出店者からは、「キッチンカーは屋台出店に比べて負担なく出店できるため、安全面、道路構造面で支障がない範囲での歩道上での設置が可能となれば、民間主体による自発的な活動につながることを期待される。」との意見が聞かれた。